

(別紙4) 平成 23 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100366		
法人名	株式会社 わかば		
事業所名	グループホームわかばの家青谷		
所在地	鳥取県鳥取市千代水1丁目118番地		
自己評価作成日	平成23年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会		
所在地	鳥取県鳥取市伏野1729-5		
訪問調査日	平成24年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様・職員が共に助け合いながら、仲良く・楽しく過ごせる家庭的な雰囲気 毎食、協力して作る食事等
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年10月開設の新しいグループホームです。自宅で過ごしているような、家庭的な雰囲気の事業所を目指しておられます。職員は、毎月家族へ手書きの手紙を送り、利用者の様子をお知らせし、家族との関係形成に繋げておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様・職員と一緒に助け合いながら、仲良く・楽しく過ごせる環境作り」という理念を共有し、日々の業務に繋げているが、地域密着型サービスの意義まではふまえた理念となっていない	事業所独自の理念を職員全員で考え、さらに具体的な短期目標を掲げ、ホールに掲示し実践されています。	職員一人ひとりが地域密着型サービスの意義を理解し、実践に繋がられるような具体的な取り組みが大切です。日々のサービス提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているか確認する機会をもたれるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流出来ていないが、働きかけは行っている	自治会に加入されていますが、地区の行事に参加する等の交流はされていません。ボランティアグループとの交流ができるように自治会にお願いされているところです。地域の方から花の持込みがあり利用者が飾ったり、一緒に畑仕事をされる等の交流があります。	事業所の様子が分かる広報紙を作成し配布したり、自治会や学校等の行事に参加されるなど、地域の人々と馴染みになるような働きかけをされるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の取り組み・状況報告や話し合いを行い、会議メンバーから意見ももらい、サービス向上に活かす努力をしている	平成23年7月から2か月に1度定期的開催し、行事等の報告や利用者の日常生活の報告をされています。この会議で出された意見について施設内会議で話し合い、サービスに繋げておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーであり、協力関係を築くよう共に取り組んでいる	地域包括支援センターや総合支所の職員が運営推進会議へ出席されています。ボランティアグループとの交流について提案があり、働きかけをされておられます。	市町村担当窓口にて、事業所の実態やケアサービスの取り組みの相談に行ったり、市町村職員に施設見学をしてもらったり等、お互いが気軽に行き来できるような関係を築かれるよう期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を受け、安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するよう努めている	法人に事故防止委員会があり、各施設で1人ずつ出席し話し合いをされています。玄関の施錠はせずに外出しそうな利用者には職員と一緒に出掛けています。	身体拘束について正しく理解し、職員全員が共通認識のもと拘束のないケアを実践するため、事業所内でも研修の機会をもたれるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について学ぶ機会はまだ持っていないが、虐待が見過ごされることがないように会議等で話し合いの機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、その都度説明を行うようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに家族代表も含まれており、ケアプランの交付時、日々の面会時等に利用者・家族の意見・要望を伺い、反映させている	家族の面会時や電話で意見や要望を聞いておられます。	意見箱を設置したり、月1回のお便りを送る時にアンケートをとるなど、積極的に意見を引き出す仕組みを作られることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、施設内会議を行い、職員の意見を聞き、反映させている	月に1度施設内会議が行われています。この会議は、職員の気づきや考えについて話し合う機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆつくりと本人の気持ちを受け止めたり、声に耳を傾け、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族の気持ちを受け止めたり、声に耳を傾け、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前の聞き取りにて、何を求めているのか見極め、出来る限りのケアが実践出来るようケアプランを作成し、支援を行えるよう努めている ・他施設の入所待ちの場合には、代行して申請手続きを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の家事等を一緒に行っていく過程で、それぞれ出来ることをしていただき、必要とされている存在なんだという意欲を引き出す働きかけを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の付き添いは、離れて暮らすご家族様にもお願いし、疎遠にならないように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、支援に努めている	利用者は、家族と一緒に行きつけの理美容院へ出掛けたり、馴染みの場所で食事したり買い物もされています。	馴染みの人や行きつけの場所、思い出の場所等、利用者一人ひとりについての情報をできるだけ多く把握するための積極的な取り組みを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、仲良く関わり合いが持てるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだケースなし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプラン作成にあたり、定期的に希望や意向は把握するよう努めている ・困難な場合は、ご家族様に確認している	日々のかかわりの中で一人ひとりの言葉や表情から思いを汲み取るように努めておられます。	利用者の思い出話を注意深く聞く等、一つでも多くニーズを引き出す取り組みをされるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様との会話やご家族様からの聞き取り等からこれまでの生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの能力・理解力を日々の生活の中で把握し、支援するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている	介護計画について、家族に面会時や電話で意見や要望を聞くようにされています。	本人の意向をもとにサービス支援会議で検討し、介護計画の作成段階で、本人や家族と十分話し合い、その意見や要望を反映した介護計画の作成が求められます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内で、ご本人様・ご家族様のニーズに対応出来るように支援しているが、事業所の多機能化は出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている	月に1度、利用者の大半が定期的にかかりつけ医に受診されています。事業所の職員は、日常の利用者の様子を家族に伝え、受診後は、結果を確認されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的に病院に行き、ご利用者様の様子を把握し、退院後も安心して施設で過ごしてもらえよう、病院関係者に相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだケースがないが、本人・家族と話し合い、事業所としてどこまでの支援が出来るか対応方針を決め、関係者と連携を取りながら共有を図りたい	実際のケースはなく、利用者、家族、職員等で具体的な話し合いは行われていません。	事業所の方針を定め、契約等に反映されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命士による講習を受け、日々の業務にあたっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・緊急連絡網を周知し、災害時の避難場所は確認している ・地域との協力体制は、出来る範囲での協力を依頼している	消防署に協力してもらい、職員と利用者で避難訓練を9月に実施されています。	日頃から警察署や消防署と連携を図り、また、自警団の協力をお願いするなど地域住民との協力体制を築かれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴等プライバシーに関わる事は配慮している	日々のかかわりの中でプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めておられます。個人情報ファイルは一定の場所に保管されています。	法人や外部での研修だけでなく、事業所内でも職員全員で人権やプライバシー保護について具体的に確認し合える機会をもたれるよう期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望を伺っているが、職員が決めている事が多い		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で、ご利用者様のペースに合わせて過ごしてもらっているが、その日どのように過ごしたいのか、希望を伺っていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご利用者様それぞれで馴染みの美容院に行かれたり、身だしなみを整えておられる ・出来ない方は、支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の方を中心に、調理の準備、盛り付け、片付け等していただいている	利用者は、調理の準備や食事、片付けなど職員と一緒に楽しそうに話をしながらされています。地域の方にいただいた旬のものを献立に取り入れておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分量、1日1000CC～1200CC程度摂取出来るよう配慮している ・献立を立て、バランス良く食事を摂っていただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを促している ・出来ない方は、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用している方もおられるが、排尿間隔を確認しつつトイレ誘導を行っている	一人ひとりの排泄を記録し、時間を見計らってトイレに案内しておられます。	おむつの使用を減らし、可能な限りトイレで排泄できるように自立に向けた支援の取り組みを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取、食事に配慮しているが、便秘が続く場合は、下剤を内服している方もおられる ・適度な運動は出来ていない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・業務の都合上、時間帯、入浴される方を決めている ・最低、週2回は入浴していただいている	入浴日を週2回午後の対応とされています。一人の利用者に一人の職員が見守り、嫌がられるような素振りのある方には、同性介助等の配慮をされています。	週2回に限定せず、利用者の希望や意向に沿った入浴が叶えられるように職員体制を工夫する等、前向きな取り組みを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様に合わせて、休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬は施設で管理している ・内服前の確認を職員同士で行っている ・薬剤情報を閲覧している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・家事仕事等役割作りをしている ・月1回の行事、その時に応じて、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買い物・ドライブ・散歩定期的に行っている ・ご家族様に定期受診介助を依頼し、ご利用者様と気分転換をしていただいている ・その日その日の希望はとれていない ・地域との交流はとれていない	月毎に行事担当を決め、誕生会、花見、グラウンドゴルフ等の毎月の計画を立てておられます。買い物や散歩などの日常的な外出までには至っていません。	天気、本人の気分や希望に応じて、日常的に戸外へ出掛けるような支援を工夫されるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望の方はご家族様と相談し、施設管理の下で預かっており、買い物に外出される時、ご本人様に渡している ・金銭出納帳をつけ、管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご利用者様の希望があれば、電話をかけている ・手紙はご家族様に相談している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間になるよう配慮している	広い窓に明るいカーテンを下げ光の調整をされています。季節を感じる雪だるまのぬいぐるみを置いたり、壁にイベントや日々の暮らしの写真を貼る等、くつろぎのスペースとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において、1人になれる空間、少人数になれる空間作りは出来ていない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使い慣れた家具を持参してもらっており、落ち着いて過ごしていただけるよう、配慮している	馴染みの家具や写真、趣味の作品等をおき、本人らしく居心地のよい部屋となっています。居室に畳を敷き、座卓や経本を置いている方もあります。家族は季節に応じて寝具や洋服等の入替えをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内は、ご利用者様に合わせて環境作りをしている ・危険のないよう、家具の位置等配慮している ・トイレの場所等間違われる事ある		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	1人ひとりの排泄を記録し、時間を計らってトイレに案内しているが、おむつの使用は継続しており、排泄のタイミングが合わない事もある。	1人ひとりの排泄の 패턴を把握し、おむつの使用を減らしていけるように支援する。	・水分量、1人ひとりの排泄を記録し、排泄パターンをつかめるように努める。 ・おむつの使用に依存しないようにご本人の意思、排泄パターンを把握しトイレに案内する。	6ヶ月
2	2	地区のボランティアグループとの交流を図れるように少しずつできてきたが、グループホームを地域に知っていただく具体的な働きかけができていない。	広報誌等を作成、配布し、地域の方にグループホームを知っていただく。	・広報誌等を作成し、ご家族、役所等に配布し青谷グループホームを知っていただく。 ・地域の行事等あればグループホームのご利用者様と一緒に参加をしたり、グループホームにも地域の方に来ていただきグループホームを知っていただく	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。